

黒毛和種肥育牛の下顎に発生した骨化性線維腫の一症例

東播基幹家畜診療所 丹波診療所

○今井正士 田畑早智 西崎 悟 永岡正宏 門田文隆

主な骨原発の腫瘍は骨腫，軟骨腫，骨化性線維腫などの良性腫瘍と骨肉腫，軟骨肉腫，線維肉腫などの悪性腫瘍が知られている。今回，牛の下顎先端に発生した腫瘤を骨化性線維腫と診断し，摘出にて正常出荷する事ができたので，その概要を報告する。

材料および方法

1. 農場の概要：約 450 頭飼養の県内黒毛和種牛肥育農場
2. 患牛：2011 年 6 月 18 日生まれの県内産黒毛和種の去勢牛。
3. 臨床経過：2012 年 10 月 5 日，口唇の腫脹にて求診。体温 38.9℃。食欲は正常だが下顎歯肉部の先端が小児手拳大に腫脹し，切歯が一部脱落。疼痛を認めるため，抗生剤投与。第 5 病日に切開し微小な骨片を多数確認。その後，抗生剤投与を続けるが腫瘤が膨張して次第に採食が困難となるため，第 55 病日に X 線検査および生検による細菌，病理検査を実施。第 57 病日に硝酸銀の塗布。第 82，104 病日に腫瘤の結紮（輪ゴム）処置を実施。第 127 病日に腫瘤基部が縮小するため摘出し腫瘤内部の細菌，病理検査を行った。

結 果

1. 臨床経過：腫瘤の摘出後は採食が回復した。下顎の切断面は次第に縮小して目立たなくなり，2013 年 12 月 18 日に正常出荷された。硝酸銀塗布の効果は認められなかった。
2. X 線検査：下顎骨先端部が内部に存在する腫瘍により押し広げられ，連続して腫瘤を形成していた。腫瘤内部には切歯が確認された。
3. 細菌検査：生検材料および摘出した腫瘤内部から *Fusobacterium necrophorum* subsp. *funduliforme* が分離された。
4. 病理検査：1) 肉眼所見：腫瘤は直径 17cm の球形で歯肉との境界は明瞭。下顎との連続部から放射状に骨様構造の増生を認め，外側に白色の線維組織が形成されていた。皮膚は表面が痂皮様に変性し，出血や水腫を認め肥厚していた。2) 組織所見：骨芽細胞に囲まれた不整形～層状の骨小柱が形成され，破骨細胞が散見された。周囲には線維組織が増生し，血管形成を認めた。皮膚と白色線維組織の境界は炎症を伴い多数の細菌塊を確認した。

考察およびまとめ

病理所見から腫瘤は下顎骨を原発とした骨化性線維腫と診断された，病態から細菌感染は二次感染によるものと考えられた。腫瘍が下顎骨の深部にまで存在するため，外科手術による全摘出は困難だと判断し，採食に大きく影響を与えない結紮処置を選択した。骨化性線維腫の国内での報告例は肥育途中で廃用となるケースがほとんどであり，摘出により出荷された例は国内ではみあたらない。本症例は下顎腫瘤の先端を安全に摘出されたことで採食が改善され，再発も認めず正常出荷に至った。